

WORLD THOROUGHBRED RANKINGS

The official listing of the top horses in the world
(covering the period 1st March to 11th September 2011)

無敗の3歳馬フランケル【135】が依然として最新版ワールドサラブレッドランキングのトップに立っている。また、上位6頭が今回も前回同様の順位を維持している。

World Thoroughbred Rankings Leading Horses 1 st March to 11 th September 2011			
Rank	Horse	Rating	Trained
1	Frankel (GB)	135	GB
2	Black Caviar (AUS)	130	AUS
3	Canford Cliffs (IRE)	127	GB
3	Nathaniel (IRE)	127	GB
3	Rewilding (GB)	127	GB
6	So You Think (NZ)	126	IRE
7	Cirrus Des Aigles (FR)	125	FR
7	Excelebration (IRE)	125	GB
7	Rocket Man (AUS)	125	SIN
7	Twice Over (GB)	125	GB
7	Workforce (GB)	125	GB

ソーユーシンク【126】は7月以来の出走となった愛チャンピオンステークス(G1)でスノーフェアリー【122】を半馬身差で降し、それまでと同様の評価を得た。同馬は約2ヶ月ぶりの出走となったが、今シーズン勝った3レースやプリンスオブウェールズステークス(G1)でリワイルディング【127】にクビ差敗れた時と同様の高いレベルでのパフォーマンスをみせた。また、スノーフェアリーは、この競走で最後まで追い詰め、これまでで最も高い評価を得ている。

他の上位馬に目を向けると、シリウスデゼーグル【125】やエクセブレイション【125】、トワイソオーバー【125】がソーユーシンクとわずか1ポンド差でランキングしている。

シリウスデゼーグルは前3走でつけた着差が計21馬身で、特にドーヴィル大賞(G2)ではライバル達を一蹴、10馬身差の圧勝劇を演じた。また、進境著しい3歳馬エクセブレイションはセントジェームズパレスステークス(G1)ではフランケルに2馬身差で敗れたものの、ニューベリー競馬場でのハンガーフォードステークス

(G2)で6馬身差の圧勝劇を演じた。同馬はその勢いで4週後のムーランドロンシャン賞(G1)を制し、初G1制覇を果たしている。

トワイソオーバーは、ヨーク競馬場でのインターナショナルステークス(G1)で同きゅう舎のミッドデイ【120】を3/4馬身差で降し、見事復活を遂げた。この結果は両馬の馬主であるハーリド・アブドゥラ殿下やこのレースのスポンサーにとって最良のものであった。

ジョッキークラブ賞（仏ダービー）(G1)の勝ち馬、リライアブルマン【123】はニエル賞(G2)を制して、通算成績が5戦4勝となった。同馬はこのレースでパリ大賞(G1)の優勝馬ミアンドル【123】を降し、雪辱を果たしている。

また3歳世代からは、マスクドマーヴェル【121】が英セントレジャー(G1)を制し、またイモータルヴァース【121】がジャックルマロワ賞(G1)でゴルディコヴァ【124】を降し、金星を上げた。また、デインドリーム【121】は、ベルリン大賞(G1)を5馬身差、バーデン大賞(G1)を6馬身差と圧倒的な内容でG1競走を制した。

北米ではティズウェイ【123】がサラトガでのホイトニー招待ハンデ(G1)を制し、ダート部門のトップに立った。成長著しい同馬はこの他にも5月にベルモントで行われたメトロポリタンハンデ(G1)を制している。

芝に目を向けると、ケープブランコ【122】がアーリントンミリオン(G1)とマンノウォーステークス(G1)と、北米の芝のG1を制している。同馬はこの2つの競走でジオポンティ【119】を降している。

アクラメーション【122】はパシフィッククラシック(G1)でトワーリングキャンディ【121】を破り、ティズウェイやケープブランコより1つ多くG1を制している。同馬はチャールズウィットティングラムメモリアルハンデ(G1)やエディリードステークス(G1)と芝のG1を制していたが、この勝利により人工馬場部門でも同様の評価を得ることとなり、馬場適性の高さを示した。